授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学概論	平野　加代子 基礎看護学分野教員	講義	1 年次 前期	必修	2	30	KSP11101

科目の概要

基礎看護学概論は、看護の初学者が専門職としてキャリア発達を遂げていくための最初のステップとして、看護について考える重要な科目である。本科目においては、看護の対象者、看護専門職、看護の提供の仕組み等の看護に関する主要な概念について広く概観し、看護活動の基盤として重要な倫理観や看護師の臨床判断の基盤となる気づく力を修得する。さらに社会から必要とされる看護の役割と責務についての理解を深め、「看護とは何か」という問に対する学生自身の探求を円滑に深めることができるよう学修を支援する。

到 達 目 標

- 看護における主要な概念とその意味、および概念間の関連について説明できる。
- 看護師の臨床判断の基盤となる思考パターンについて説明し、自身の気づく力を培うことができる。
- 看護専門職の活躍の場と役割について説明できる
- 看護を提供する仕組みについて説明できる

授 業 内 容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス　科目の位置づけと学習する意義と目的　看護・ケアとは
第 2 回	看護のなりたち
第 3 回	看護の対象者①　人間・健康・環境
第 4 回	看護の対象者②　人間・健康・環境
第 5 回	看護の提供者①　看護実践の基盤　看護専門職の思考法
第 6 回	看護の提供者②　看護実践の原則
第 7 回	看護の提供者③　看護倫理
第 8 回	看護の提供者④　医療安全への取り組み
第 9 回	看護専門職の活躍①　キャリア発達　専門看護師・認定看護師
第10回	看護専門職の活躍②　国際看護・災害看護
第11回	看護の提供の仕組み①　看護マネジメント
第12回	看護の提供の仕組み②　保健医療福祉サービス
第13回	臨床判断モデルと気づく力①
第14回	臨床判断モデルと気づく力②
第15回	看護の提供の仕組み③　法律・医療保険制度と介護保険制度・看護教育制度

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 3～15 回
プレゼンテーション…第 10・第 14 回

成績評価方法	小テスト 20%　成果物 30%　定期試験(筆記)50%					
教科書	『看護覚え書き』フロレンス・ナイティンゲール 著 小玉香津子・尾田葉子 訳(日本看護協会出版会)、『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン 著 湯槇ます・小玉香津子 訳(日本看護協会出版会)、『看護学概論 第 7 版』志自岐 康子(メディカ出版)					
参考文献	授業時に紹介します。					
事前学習(内容・時間)	教科書の授業範囲のページを熟読し、課題に取り組む(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	各講義回に課題を提示する(2 時間)					
フィードバックの方法	講義時間中に必要に応じて説明を加える					
実務家教員科目	総合病院の病棟/外来での実務経験と看護実践を活かし、様々な看護の役割について概説する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	◎	—	—	—	○

Ⅲ 専門分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護理論	平野　加代子 基礎看護学分野教員	講義	1年次 後期	必修	1	15	KSP11102

科目の概要

看護理論は看護における知識を体系化し、看護に関連した現象をより明確に記述・説明・予測するための枠組みであり、より望ましい看護実践を可能にするために開発され発展してきた。本科目では、事例について看護理論を用いて深く考察し、看護展開における対象理解と対象者の持てる力を導き出す看護援助を考え、さらに看護理論を活用しながら看護を実践するための基礎的能力を身につけられるよう教授する。

到達目標

- 看護学を構成する主要概念について説明することができる。
- 看護理論と看護に関連する諸理論について説明することができる。
- 看護専門職を志向し、自身の考える看護について説明することができる。

授業内容

授業回数	授業計画
第 1 回	ガイダンス　看護学を構成する主要概念と看護理論
第 2 回	代表的な看護理論①
第 3 回	代表的な看護理論②
第 4 回	代表的な看護理論③
第 5 回	看護現象を理解するための諸理論①
第 6 回	看護現象を理解するための諸理論②
第 7 回	看護現象を理解するための諸理論③
第 8 回	看護学の発展と看護理論の活用　まとめ

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1,8 回
グループワーク…第 2～7 回

成績評価方法	定期試験(筆記)40%　小テスト 30%　成果物 30%					
教科書	『看護覚え書き』フロレンス・ナイティンゲール 著 小玉香津子・尾田葉子 訳(日本看護協会出版会)、『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン 著 湯槇ます・小玉香津子 訳(日本看護協会出版会)、『看護学概論』志自岐 康子(メディカ出版)					
参考文献	『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン 著 湯槇ます・小玉香津子 訳(日本看護協会出版会)、『看護学概論 第 7 版』志自岐 康子(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	教科書の授業範囲のページを熟読し、割り当てられた課題に取り組む(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	『看護の基本となるもの』を通読し要約する(2 時間)					
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは課題へのコメントや、講義におけるディスカッションにより適宜行う					
実務家教員科目	総合病院の病棟/外来での実務経験を活かし、看護の対象を理解するための基礎理論を概説する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	—	—	○	◎	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護コミュニケーション論	西垣　里志／木村　聡子 東野　和馬／椋本　美帆	講義・演習	1 年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

コミュニケーションを構成する要素とプロセスを理解し、看護実践の基盤となる援助的人間関係を築くための基礎的な知識とスキルを教授する。看護専門職としてのコミュニケーション能力を伸ばすことができるよう、グループワークやディスカッションによるインタラクティブな活動を多く取り入れ学修を支援する。

到 達 目 標

- 自己理解を図りながら自己のコミュニケーションの特徴を知り説明することができる。
- 様々なコミュニケーションの技術を理解し説明することができる。
- 他者理解および関係構築のための基礎的知識について説明できる。
- 社会の一員として必要な言葉遣いやマナーを、場面に応じて使用でき、チームでの活動において必要な基本的スキルを身につけ発揮できる。
- 看護専門職として対象者と関係構築する際に重要となるモラルや倫理観が説明できる。

授 業 内 容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	コミュニケーションの仕組み
第 2 回	自分とのコミュニケーション① 自己理解 自己開示 自己受容
第 3 回	自分とのコミュニケーション② 他者理解 自己表現
第 4 回	対人関係を考える① 信頼関係 聴く力 マナー
第 5 回	対人関係を考える② 適切な対人距離 社会人基礎力
第 6 回	様々なコミュニケーションの問題と対処
第 7 回	看護専門職としてのコミュニケーション技術① 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第 8 回	看護専門職としてのコミュニケーション技術② 傾聴する技術
第 9 回	看護専門職としてのコミュニケーション技術③ 共感する技術 承認する技術
第10回	看護専門職としてのコミュニケーション技術④ アサーション
第11回	看護専門職としてのコミュニケーション技術⑤ 患者・家族に対するコミュニケーションのロールプレイ
第12回	コミュニケーションスキルの向上 リフレクション プロセスレコード
第13回	看護学習者としてのコミュニケーション① 挨拶 報告 連絡 相談 多職種連携
第14回	看護学習者としてのコミュニケーション② コーチング チームリーダーとしてのコミュニケーション
第15回	看護学習者としてのコミュニケーション③ モラルと倫理観

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～5,7～10 回
グループワーク…第 11～14 回
プレゼンテーション…第 6,15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80%　成果物 20%					
教科書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	テキストの授業範囲の箇所を熟読しまとめ、自分に置き換え考えてみる(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	学習内容を日常生活のコミュニケーション場面に落とし込み実践してみる(1 時間)					
フィードバックの方法	成果物に対するフィードバックやコメントは授業中に対話しながら解説する					
実務家教員科目	精神科病院の病棟実務経験を活かし、看護師としてのコミュニケーションについて指導する。講義や演習 においては実務経験で体験した様々な場面での事例を使いながら、問題点や注意すべき点を解説する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	○	—	—	◎	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学援助技術Ⅰ	瀬山　由美子 基礎看護学分野教員	講義・演習	1年次 前期	必修	2	60	KSP11203

科目の概要

すべての看護ケアに共通する基本的な知識と技術、自立した生活が困難となった人々に対する日常生活の援助、原理と原則に準拠した安全で安楽な看護ケアを提供するための基礎的な知識と技術について教授する。科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、実習室という臨床を模した学習環境において、看護学を学習するにあたり必要となる主体的な学習態度とグループで協力して学び合う姿勢を身につけることができるよう、講義と演習を組み合わせ、学修を支援する。

到達目標

- 原理・原則に基づいた看護ケアを提供するための基本的な知識について説明できる。
- 科学的根拠に基づき対象者に必要な看護ケアを計画することができる。
- 安全・安楽で、倫理的な配慮を伴う看護ケアを展開することができる。
- 主体的に学習に取り組み、グループの活動に貢献できる。

授業内容

授業回数	授業計画
第 1 回	ガイダンス、看護技術を学ぶにあたって（講義）
第 2 回	感染防止の技術①［感染予防の基礎知識、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策］（講義）
第 3 回	感染防止の技術②［実習室オリエンテーション、スタンダードプリコーション］（講義・演習）
第 4 回	環境調整技術①［環境調整の意義、療養環境のアセスメント、療養環境の調整と整備］（講義）
第 5 回	環境調整技術②［スタンダードプリコーション、ベッドメイキング、環境整備］（演習）
第 6 回	環境調整技術③［ベッドメイキング、環境整備］（演習）
第 7 回	活動・休息援助技術①（講義）
第 8 回	苦痛の緩和・安楽確保の技術（講義）
第 9 回	活動・休息援助技術②［移送・移乗・安楽な体位］（演習）
第 10 回	活動・休息援助技術③［移送・移乗・安楽な体位］（演習）
第 11 回	食事援助技術①［食事と栄養の意義、食事摂取基準、治療食・治療食、食事と栄養のアセスメント］（講義）
第 12 回	食事援助技術②［食事摂取の自立困難、嚥下障害、経管・経腸栄養法、経静脈栄養法］（講義）
第 13 回	食事援助技術③［食事介助］（演習）
第 14 回	食事援助技術④［食事介助］（演習）
第 15 回	清潔・衣生活援助技術①［清潔と衣生活の意義、清潔に影響する要因、アセスメント］（講義）
第 16 回	清潔・衣生活援助技術②［清潔行動や衣生活の援助］（講義）
第 17 回	清潔・衣生活援助技術③［足浴］（演習）
第 18 回	清潔・衣生活援助技術④［足浴］（演習）
第 19 回	清潔・衣生活援助技術⑤［洗髪］（演習）
第 20 回	清潔・衣生活援助技術⑥［洗髪］（演習）
第 21 回	清潔・衣生活援助技術⑦［全身清拭・寝衣交換］（演習）
第 22 回	清潔・衣生活援助技術⑧［全身清拭・寝衣交換］（演習）
第 23 回	排泄援助技術①［排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント］（講義）
第 24 回	排泄援助技術②［排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント］（講義）
第 25 回	排泄援助技術③［床上排泄］（演習）
第 26 回	排泄援助技術④［床上排泄］（演習）
第 27 回	排泄援助技術⑤［おむつ交換、陰部洗浄］（演習）
第 28 回	排泄援助技術⑥［おむつ交換、陰部洗浄］（演習）
第 29 回	技術の統合①
第 30 回	技術の統合②

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～4,7,8,11,12,15,16,23,24 回／グループワーク…第 5,6,9,10,13,14,17～22,25～30 回

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　定期試験（実技）20%　成果物 20%					
教科書	『基礎看護学［2］ 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版』茂野 香おる（医学書院）『基礎看護学［3］ 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版』有田 清子（医学書院）					
参考文献	『看護がみえる vol.2　臨床看護技術』医療情報科学研究所　編集（メディックメディア）、『vol.1 基礎看護技術』中村充浩（照林社）『看護がみえる vol.1　基礎看護技術　第 2 版』医療情報科学研究所　編集（医療情報科学研究所　編集）					
事前学習（内容・時間）	テキスト・配布資料・関連動画を活用し、技術の手順と根拠を説明できる状態で演習に臨む（1～3 時間）					
事後学習（内容・時間）	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返し行い、看護技術を身につける（1～3 時間）					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
実務家教員科目	総合病院の脳外科・内科・手術部での臨床経験を活かし、看護を提供するために必要な基本的な知識と技術を指導する。 実務での経験をもとに具体的な事例を紹介し、根拠に基づいた看護技術の習得を支援する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	◎	—	—	○	◎	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学援助技術Ⅱ	神寳ひろみ 基礎看護学分野教員	講義・演習	1年次 後期	必修	2	60	KSP11204

科目の概要

治療や検査などの身体的侵襲を伴う技術は正確性・安全性・安楽性が特に重要となり、高い倫理観を基盤とした援助が求められる。科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、医療安全の視点から理解できるように授業を展開する。授業は、講義と演習を組み合わせた主体的学習が取り組めるように指導する。

到達目標

- 原理・原則に基づいた看護ケアを提供するための基本的な知識について説明できる。
- 科学的根拠に基づき対象者に必要な看護ケアを計画することができる。
- 安全・安楽で、倫理的な配慮を伴う看護ケアを実施することができる。
- 主体的に学習に取り組み、グループの活動に貢献できる。

授業内容

授業回数	授業計画
第 1 回	ガイダンス、安全確保の技術(講義)
第 2 回	感染防止の技術①[洗浄・消毒・滅菌、無菌操作](講義)
第 3 回	感染防止の技術②[感染性廃棄物、感染管理、針刺し事故](講義)
第 4 回	感染防止の技術③[滅菌手袋の装着、滅菌鑷子・滅菌包の開け方](演習)
第 5 回	感染防止の技術④[滅菌手袋の装着、滅菌鑷子・滅菌包の開け方](演習)
第 6 回	排泄援助技術①[排便・排尿](講義)
第 7 回	排泄援助技術②[一時的導尿](演習)
第 8 回	排泄援助技術③[グリセリン浣腸](演習)
第 9 回	呼吸・循環を整える技術①[呼吸・循環・体温のアセスメント](講義)
第 10 回	呼吸・循環を整える技術②[呼吸・循環・体温のアセスメント](講義)
第 11 回	呼吸・循環を整える技術③[バイタルサインの測定](演習)
第 12 回	呼吸・循環を整える技術④[バイタルサインの測定](演習)
第 13 回	呼吸・循環を整える技術⑤[酸素療法・一時的吸引](演習)
第 14 回	呼吸・循環を整える技術⑥[酸素療法・一時的吸引](演習)
第 15 回	創傷管理技術①[創傷管理、褥瘡予防](講義)
第 16 回	創傷管理技術②[創傷処置、ドレッシング材の特徴と使用方法](演習)
第 17 回	症状・生体機能管理技術①(講義)
第 18 回	症状・生体機能管理技術②(講義)
第 19 回	症状・生体機能管理技術③[静脈血採血](演習)
第 20 回	症状・生体機能管理技術④[静脈血採血](演習)
第 21 回	与薬の技術①[薬物の性質](講義)
第 22 回	与薬の技術②[与薬法](講義)
第 23 回	与薬の技術③[輸血管理](講義)
第 24 回	与薬の技術④[皮下注射、筋肉内注射](演習)
第 25 回	与薬の技術⑤[皮下注射、筋肉内注射](演習)
第 26 回	与薬の技術⑥[静脈内点滴注射](演習)
第 27 回	与薬の技術⑦[静脈内点滴注射](演習)
第 28 回	技術の統合①
第 29 回	技術の統合②
第 30 回	技術の統合③

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～3,6,9,10,15,17,18,21～23,26 回
グループワーク…第 4,5,7,8,11～14,16,19,20,24～27,28～30 回

成績評価方法	定期試験(筆記)60%　定期試験(実技)20%　成果物 20%					
教科書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)『基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)					
参考文献	『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)『看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第 2 版』医療情報科学研究所 編集(医療情報科学研究所 編集)					
事前学習(内容・時間)	テキスト・配布資料・関連動画を活用し、技術の手順と根拠を説明できる状態で演習に臨む(30 分)					
事後学習(内容・時間)	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返し行い、看護技術を身につける(30 分)					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
実務家教員科目	総合病院・大学病院の病棟実務経験を活かし、看護技術(主に検査・治療に伴う援助技術)の基礎について指導する。講義・演習においては看護実践を行うために必要な観察と検査・治療を受ける対象者の心理、人体の構造機能等の既習知識に裏付けられた安全で正確な看護技術の方法を実務で経験した事例を交えながらイメージしやすいよう展開する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	◎	—	—	○	◎	○

Ⅲ 専門分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヘルスアセスメント	前中　夕紀 基礎看護学分野教員	講義・演習	2 年次 前期	必修	1	30	KSP21202

科目の概要

ヘルスアセスメントは、対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的な視点から総合的にアセスメントすることである。
特にフィジカルアセスメントでは、生活者である対象者の身体状況の診査に必要な知識と技術を身につけるための講義および演習をする。さらに看護過程展開の基盤となるアセスメント能力につなげるための学修を支援する。

到 達 目 標

- ヘルスアセスメントの目的と看護における意義を説明できる。
- 対象者の健康状態を把握するために必要な情報を正確に記録できる。
- 基本的なフィジカルイグザミネーションの方法を理解し実施できる。
- フィジカルイグザミネーションで得られた情報をアセスメントできる。
- 対象者の健康状態を身体的・心理的・社会的な視点で総合的にアセスメントできる。

授 業 内 容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	【講義】ヘルスアセスメントの概念と看護の役割
第 2 回	【講義/演習】全体の概観：一般状態と生命徴候
第 3 回	【講義/演習】生命を維持する①：循環器系フィジカルアセスメントの基本
第 4 回	【演習】生命を維持する②：循環器系フィジカルアセスメントの実際
第 5 回	【講義/演習】生命を維持する③：呼吸器系フィジカルアセスメントの基本
第 6 回	【演習】生命を維持する④：呼吸器系フィジカルアセスメントの実際
第 7 回	【講義/演習】感覚・神経機能：脳神経系フィジカルアセスメントの基本
第 8 回	【演習】感覚・神経機能：脳神経系フィジカルアセスメントの実際
第 9 回	【講義/演習】身体を動かす/からだをまもる：フィジカルアセスメントの基本
第10回	【演習】身体を動かす/からだをまもる：フィジカルアセスメントの実際
第11回	【講義/演習】食べる・栄養をとりこむ/排泄する：フィジカルアセスメントの基本
第12回	【演習】食べる・栄養をとりこむ/排泄する：フィジカルアセスメントの実際
第13回	【講義/演習】セクシャリティとフィジカルアセスメントの基本／事例を用いたフィジカルイグザミネーション（グループワーク）
第14回	【演習】ヘルスアセスメントの統合①
第15回	【演習】ヘルスアセスメントの統合②

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2～13 回

成績評価方法	定期試験（筆記）60%　定期試験（実技）10%　成果物 10%　小テスト 20%					
教科書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版』茂野 香おる（医学書院）、『新訂版 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス』守田 美奈子（インターメディカ）					
参考文献	『日常生活行動からみるヘルスアセスメント』大久保暢子 編（日本看護協会出版会）、『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所 編集（メディックメディア）、『看護形態機能学 第 4 版』菱沼典子 著（日本看護協会出版会）					
事前学習（内容・時間）	・指定された教科書・配布資料を用いて、当該回のフィジカルアセスメントの目的・観察項目・手順を確認する ・解剖生理学の該当箇所を復習し、対象となる身体機能の構造と働きを整理する ・提示された事前課題（チェックリスト、動画視聴、設問等）に取り組み、自身の理解度や疑問点を明確にする （2 時間）					
事後学習（内容・時間）	・演習で行った観察・気づき・課題を振り返る ・教員や他学生からの指摘を踏まえ、次回に向けた改善点を明確にする （1 時間）					
フィードバックの方法	事後課題は、授業時または提出後に講評する					
実務家教員科目	総合病院における臨床経験を活かし、対象者の健康状態を把握するために必要なアセスメントの基礎について指導する。 講義および演習では複数の事例を提示し、観察技術や思考力など看護実践へつなげられるよう教授する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力（看護実践力）
	◎	○	—	—	○	○

Ⅲ 専門分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護過程展開の基礎	平野　加代子 基礎看護学分野教員	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	30	KSP21203

科目の概要

看護過程は看護を展開するための思考と実践の過程であり、看護を科学的に展開するための基本技術である。授業では、看護過程の必要性や構成要素、看護過程の展開プロセスとそこで必要なクリティカルシンキングについて講義する。さらに模擬電子カルテソフトを使用し、事例展開を演習形式で行い、概念の理解と知識の活用ができるように学修を支援する。

到 達 目 標

- 看護過程の概念と構成要素を説明できる。
- 事例に対する看護過程の展開ができる。
- 事例に対する個別性を考慮した看護計画を立案することができる。
- 事例の看護計画に基づいた実践・評価ができる。

授 業 内 容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	【講義】看護学における看護過程の位置づけ、看護過程の構成要素 看護過程の 5 つの段階と事例展開を行う上で必要な準備
第 2 回	【演習】事例に関連した病態の理解
第 3 回	【講義/演習】情報の分析①
第 4 回	【講義/演習】情報の分析②
第 5 回	【講義/演習】情報の分析③
第 6 回	【講義】全体像
第 7 回	【演習】事例患者の全体像の作成
第 8 回	【演習】事例患者のアセスメントおよび看護問題の明確化までのプロセス(全体像のグループ発表)
第 9 回	【講義/演習】事例患者の看護問題リスト作成
第10回	【講義・演習】事例患者の看護計画立案
第11回	【演習】事例患者の看護計画立案(グループ発表)
第12回	【演習】事例患者の看護計画実践/看護実践後の報告と記録の整理①
第13回	【演習】事例患者の看護計画実践/看護実践後の報告と記録の整理②
第14回	【講義/演習】看護計画の評価と修正、看護サマリー
第15回	【講義/演習】看護サマリー発表、まとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2～5,7～11,14,15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)40%　成果物 50%　小テスト 10%					
教　科　書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)、『実習記録・看護計画の解体新書』石川ふみよ(学研プラス)					
参　考　文　献	『看護がみえる vol.4　看護過程の展開』医療情報科学研究所　編集(メディックメディア)					
事前学習(内容・時間)	アセスメントに必要な知識を随時、復習・学習する。授業資料を読む(1～3 時間)。					
事後学習(内容・時間)	指定された課題(2 時間)					
フィードバックの方法	レポート課題は、授業時または提出後に講評する					
実務家教員科目	総合病院での実務経験を活かし、看護実践のための看護過程の基本的なプロセスを展開しながら、対象者を生活者として、看護の視点からアセスメントし、対象の個別性や強みを活かした看護援助の展開方法基礎について指導する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	◎	○	—	◎	—	◎

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅看護学概論	乙黒　千鶴 内貴　千沙登	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSP21101

科目の概要

地域で暮らす人々の「健康と暮らし」を支える看護について、その基盤となる考え方と社会資源や法制度等について教授する。人々を取り巻く社会の変化に伴う生活者のニーズに対応するため、医療現場、行政、産業、学校、介護・福祉施設など多様な場で展開される看護活動を説明する。地域包括ケアシステムの目的を理解し、看護職間での連携・多職種との協働の重要性について講義する。

到 達 目 標

- 地域で暮らす人々の「健康と暮らし」を支える看護について、その基盤となる考え方と社会支援や法制度等について説明できる。また、関係する科目と関連付けながら自ら学びを修得することができる。
- 社会の変化に伴う生活者のニーズに対応するため、医療現場、行政、産業、学校、介護・福祉施設など多様な場で展開される看護活動を説明できる。併せて、様々な現場で生じる課題について述べることができる。
- 対象者である人々の尊厳と生活をふまえ、地域包括ケアシステムの目的を理解し、看護職間での連携・多職種との協働の重要性に

授 業 内 容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	人々の暮らしと地域・在宅看護①
第 2 回	人々の暮らしと地域・在宅看護②
第 3 回	暮らしの基盤としての地域の理解①
第 4 回	暮らしの基盤としての地域の理解②
第 5 回	地域・在宅看護の対象①
第 6 回	地域・在宅看護の対象②
第 7 回	地域における暮らしを支える看護①
第 8 回	地域における暮らしを支える看護②
第 9 回	地域における暮らしを支える看護③
第10回	地域における暮らしを支える看護④
第11回	地域・在宅看護実践の場と連携①
第12回	地域・在宅看護実践の場と連携②
第13回	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用①
第14回	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用②
第15回	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用③

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 15 回
グループワーク…第 5,8,12 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80%　成果物 10%　小テスト 10%					
教科書	『地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第 7 版』河原 加代子(医学書院)					
参考文献						
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間の指示された課題を実施する(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストについて、授業の中で解説します					
実務家教員科目	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を説明します　地域での保健師・看護師の経験に基づき、地域看護及び在宅看護について概説する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	◎	—	—	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修／選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅看護学援助論Ⅰ	乙黒　千鶴 内貴　千沙登	講義	2 年次 後期	必修	1	15	KSP21102

科目の概要

地域で暮らす療養者と家族が、在宅療養を継続できるための看護援助について教授する。生活者である療養者とその家族を、疾患や障害だけでなく社会活動および社会環境という視点で見つめ、生活者としてのニーズや看護課題を抽出し、援助の個別性・多様性と看護の役割について講義する。

到 達 目 標

- 在宅看護を必要とする対象者の背景や特徴について自ら総合的に理解し、説明できる。
- 療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を説明できる。
- 地域で暮らす療養者と家族が、在宅療養を継続できるための看護援助について説明できる。且つそこに生じる課題について自らの考えを表現でき、グループワークを通して考えを深め、発表することができる。

授 業 内 容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	暮らしを支える看護技術①心構え／対話・コミュニケーション／家族を支える看護
第 2 回	暮らしを支える看護技術②安全をまもる看護
第 3 回	暮らしを支える看護技術③療養環境調整／活動・休息
第 4 回	暮らしを支える看護技術④食生活・嚥下
第 5 回	暮らしを支える看護技術⑤排泄
第 6 回	暮らしを支える看護技術⑥清潔・衣生活／苦痛の緩和・安全確保
第 7 回	暮らしを支える看護技術⑦呼吸・循環
第 8 回	暮らしを支える看護技術⑧創傷管理

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 7 回
グループワーク…第 3,7 回
プレゼンテーション…第 3 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80%　成果物 10%　小テスト 10%					
教科書	『地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第 6 版』河原 加代子(医学書院)					
参考文献						
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題を実施する(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストについて、授業の中で解説します					
実務家教員科目	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を説明します　地域での保健師・看護師の経験に基づき、地域で暮らす療養者と家族が、在宅療養を継続できるための看護援助について教授する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	—	—	◎	—	◎

Ⅲ 専門分野